

# 健康科学部 医療福祉学科 社会福祉専攻カリキュラムマップ

医療福祉学科 社会福祉専攻ディプロマポリシー	1. 知識・理解	①社会福祉専門職として、社会動向の把握に努め、支援を必要とする人たちの多様性を理解し、地域における保健・医療・福祉の連携の重要性を理解し、良好な協働関係を構築することができる。							
	2. 汎用的能力	②社会福祉を必要とする人たちとその社会背景を分析し、女性の専門職としての強みを活かし、個別・集団の問題解決を論理的に思考することができる。 ③社会福祉専門職に必要な知識・技術を活用し、社会福祉を必要とする人々を主体とした社会福祉実践方法を選択し、計画・実行することができる。							
	3. 態度・志向性	④ 仏教精神に基づく社会福祉専門職としての自覚を持ち、社会や他者に積極的に貢献することができる。							
	4. 統合的な学習経験と創造的思考力	⑤ 社会人として必要なコミュニケーション能力や創造的思考力、問題発見解決力などの基礎的能力を養い、主体的に取り組むことができる。 ⑥社会福祉専門性を活かし地域における保健・医療・福祉の連携のもと、地域社会に貢献することができる力を身につけている。							
学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学容量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号					
				①	②	③	④	⑤	⑥
健康科学概論	健康を保つために、人体の構造や働き、年齢に応じた体力づくりや運動能力向上を目的とした運動の必要性を理解する	1. 乳幼児期から壮年中高年期におけるからだの発育・発達と老化の過程とその特性を理解する	30	◎	○				
		2. 生化学・解剖生理学や栄養学の初歩的な知識を交えながら運動栄養学的側面から理解する	10	◎					
		3. 健康な生活維持のためには多様な社会的サービスが必要であることを理解する	60	○		◎			
包括的ヘルスケア論	プライマリヘルスケアの概念を理解し、包括的・地域的ヘルスケアシステムの中での管理栄養士としての役割や実際のマネジメントについて学ぶ	1. プライマリヘルスケアの概念を理解する	80	◎					○
		2. 地域包括ケアの特徴と管理栄養士の役割を理解する	20	○					○
生命倫理	人の生命の尊厳、基本的権利、尊厳死などについて学び、社会福祉職としての基本的な倫理原則、倫理理論を学ぶ	1. 人としての命の尊厳と基本的権利を社会福祉的視点から理解できる	30				◎		
		2. 社会福祉専門職としての倫理原則と生命・医療倫理を理解している	30				◎		
		3. 日常生活の場の問題解決を倫理的判断にもとづいて考察できる	40			◎			
ターミナルケア	ターミナル期におけるスピリチュアルな側面に焦点を当て、ホスピスケア、緩和ケア、を理解し、仏教に基づくビハラーケアを学ぶ	1. ターミナル期にある患者のホスピスケアや緩和ケアを理解している	20				◎		
		2. ターミナル期にある患者に仏教が提唱しているビハラーケアについて理解している	20				◎		
		3. 仏教に基づいた温もりのある社会福祉援助に必要なコミュニケーションスキルを理解している	60				◎	○	
専門職の連携(基礎)	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種役割を理解する	1. 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的ヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する	30	◎					○
		2. 地域における包括的ヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する	30	◎					○
		3. 他職種の視点を通して、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる	40	◎					○

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 ( 授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和 ) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
①	②	③	④	⑤	⑥				
専門職の連携(応用)	他職種との連携協働の実態を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総合的な学習を行う	1. 他職種間での専門的かつ高次なコミュニケーションをはかれるようになる	30	◎				○	
		2. 実例を取り上げることで、より具体的で実践的な援助方法を理解する	30	◎				○	
		3. 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す	40	◎				○	
医療福祉連携論	対人援助において医療と社会福祉の連携が必要であり、現代社会では多様な場面において実施されていることを学ぶ	1. 医療場面において社会福祉との連携について理解する	30	◎		○			
		2. 社会福祉における医療との連携について学ぶ	30	◎		○			
		3. 現代社会の多様な医療福祉連携の実態を理解する	40	◎		○			
障害者福祉	障害者福祉サービスのこれまでの歴史、社会背景を通じて、現状の障害者福祉の意義と課題について習得できるようにする	1. わが国の障害者に関する歴史と施策に関して理解し、必要な行動がとれる	30		○	◎			
		2. 障害者に対する福祉サービスの種類、目的、その効果について理解し専門職を目指す者として活用できる	40		○	◎			
		3. 障害者福祉サービスと他の福祉サービスと比較し、総合的に理解できる	30		○	◎			
女性と社会福祉	社会福祉現場では、女性が主たる担い手であり、生き生きと働く女性の姿を見ることができ、だが、社会における女性の位置を俯瞰したとき、様々な課題も見えてくる。そこで本講では、女性がこの社会の中で自立して生きるということの意味を、様々な角度から考える	1. 家族、社会との関係における女性としての自立(=人間としての自立)を考える	50	○	◎				
		2. 女性を支える法律や制度の仕組みを知る	30		◎				
		3. 海外にも視野を広げ、特に発展途上国の女性の暮らしを学ぶ	20		◎				
仏教と社会福祉	仏教と社会福祉の関係を考える場合、社会福祉の側面からは、その密着性や仏教信仰の精神的関係構築が問題になる。こういった仏教と社会福祉の協働について学ぶ	1. 仏教社会福祉についての基礎的知識を身につける	30			○	◎		
		2. 仏教的価値と社会福祉の価値が協働する場面について学ぶ	40			○	◎		
		3. 仏教社会福祉実践の実際について学ぶ	30			○	◎		
基礎演習Ⅰ	20人程度のクラスで、社会福祉の現状、日常生活(体験)等から社会福祉的課題に気づき、社会福祉的なものの考え方や感覚を学ぶ。福祉現場の見学、当事者・家族の話を聴くことで、社会福祉を学ぶことの意義や面白さを体験する。客観的ケース、プレゼンテーション、ディスカッション等の演習方法についても基本的な学習を行う	1. 社会福祉の意義と価値について理解する	40		◎			○	
		2. 社会福祉専門職の役割について理解する	40		◎			○	
		3. 自らの社会福祉的な考え方について検証を行う	20		◎			○	
基礎演習Ⅱ	20人程度のクラスで、社会福祉の現状、日常生活(体験)等から社会福祉的課題に気づき、社会福祉的なものの考え方や感覚を学ぶ。福祉現場の見学、当事者・家族の話を聴くことで、社会福祉を学ぶことの意義や面白さを体験する。客観的ケース、プレゼンテーション、ディスカッション等の演習方法についても基本的な学習を行う	1. 社会福祉の意義と価値について理解する	40		◎			○	
		2. 社会福祉専門職の役割について理解する	40		◎			○	
		3. 自らの社会福祉的な考え方について検証を行う	20		◎			○	
現代社会と福祉Ⅰ	福祉制度の意義・理念、福祉の原理をめぐり理論・哲学、福祉政策におけるニーズ・資源について理解できる	1. 現代社会における福祉制度と福祉政策の関係を説明できる	40	○	◎				
		2. 福祉の原理をめぐり理論と哲学について説明できる	40	○	◎				
		3. 福祉制度の発達過程について説明できる	20	○	◎				

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体の100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
				①	②	③	④	⑤	⑥
現代社会と福祉Ⅱ	福祉政策の構成要素、福祉政策と関連政策、福祉政策と相談援助活動、福祉政策の課題について理解できる	1. 福祉政策におけるニーズと資源の関係を説明できる	40	○	◎				
		2. 福祉政策の構成要素について説明できる	40	○	◎				
		3. 福祉政策と相談援助活動の関係について説明できる	20	○	◎				
基礎演習Ⅲ	Iに続いて、社会福祉の現状、日常生活(体験)等から社会福祉的課題に気づき、社会福祉的なものの考え方や感覚を学ぶ。見学やゲストの話を聞くことで、社会福祉を学ぶことの意義や面白さを体験したりサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション等の演習方法についても修得する	1. 現代社会の多様な社会福祉の現状と課題について自ら考察する	30		◎			○	
		2. 考え、気付いた事柄について適切にまとめ、発表する	30		◎			○	
		3. 社会福祉の専門職の役割について、深く考えることができる	40		◎			○	
基礎演習Ⅳ	Iに続いて、社会福祉の現状、日常生活(体験)等から社会福祉的課題に気づき、社会福祉的なものの考え方や感覚を学ぶ。見学やゲストの話を聞くことで、社会福祉を学ぶことの意義や面白さを体験したりサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション等の演習方法についても修得する	1. 現代社会の多様な社会福祉の現状と課題について自ら考察する	30		◎			○	
		2. 考え、気付いた事柄について適切にまとめ、発表する	30		◎			○	
		3. 社会福祉の専門職の役割について、深く考えることができる	40		◎			○	
保健医療	医療史の歴史、現在の医療技術と医療システムを取り、リハビリテーション医療、社会福祉との関連を理解して行くことを目標とする	1. 医療、保健、社会福祉の倫理を知り、専門職としての心構えを理解する	40	◎		○			
		2. 現代の医療体系や医療保険福祉制度とリハビリテーション医療との関係を理解する	30	◎		○			
		3. リハビリテーション医療と密接に関係する特定疾患や生活習慣病の概要を知ることができる	30	◎		○			
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証しつつ、病院医療から地域医療に転換すべき積み残されてきた福祉課題を検討する	1. わが国における精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証する	30	○		◎			
		2. 精神疾患に伴う精神科医療の現状を把握するために、精神保健福祉法における医療システムを検討する	30	○		◎			
		3. 重い障害を有した入院患者(統合失調症を中心)とした退院促進の様々な取り組みの展開過程を通じて検討する	40	○		◎			
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証しつつ、病院医療から地域医療に転換すべき積み残されてきた福祉課題を検討する	1. ストレス社会における精神疾患の病態の多様化に伴い、それらが多方面にわたって急増している医療状況を理解する	30	○		◎			
		2. 精神医療と精神保健の体制における福祉課題を考える	40	○		◎			
		3. 小児・思春期から老年期までの様々なライフサイクルの段階でのメンタルヘルスに伴う福祉課題を理解する	30	○		◎			
精神障害者の生活支援システム	精神医療および精神保健の歴史的な展開過程を検証しつつ、病院医療から地域医療に転換すべき積み残されてきた福祉課題を検討する	1. ストレス社会における精神疾患の病態の多様化に伴い、それらが多方面にわたって急増している医療状況を理解する	30	○		◎			
		2. 精神医療と精神保健の体制における福祉課題を考える	40	○		◎			
		3. 小児・思春期から老年期までの様々なライフサイクルの段階でのメンタルヘルスに伴う福祉課題を理解する	30	○		◎			
社会福祉専門演習Ⅰ	社会福祉の現実を見聞きすることや、学生の日常生活(体験)等から社会福祉的課題を見つける訓練を中心に、社会福祉的なものの考え方の基本や社会福祉的な感覚を学ぶ。具体的には様々な現場を見学する。現場ワーカーや当事者・家族の話を聞く、ボランティアと交流する。ビデオ教材等を積極的に用いる等の方法を駆使して、社会福祉を学ぶことの意義や面白さを体験する。またリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション等の演習方法についても基本的な訓練をする	1. 現代社会における社会福祉の表象について考察する	30					○	◎
		2. 生活の中の社会福祉の役割について様々な現象から検証する	30					○	◎
		3. 現存する社会福祉サービスの機能について検証する	40					○	◎

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				①	②	③	④	⑤	⑥
社会福祉専門演習Ⅱ		1. 現代社会における社会福祉の表象について考察する	30					○	◎
		2. 生活の中の社会福祉の役割について様々な現象から検証する	30					○	◎
		3. 現存する社会福祉サービスの機能について検証する	40					○	◎
医学知識		1. 高齢者、障害者の基礎的な身体的、精神的な健康について理解する	30	○	◎				
		2. 医学と社会福祉の連携について理解する	40	○	◎				
		3. 医療機関と協力機関の役割について理解する	30	○	◎				
社会調査の基礎	社会調査とその方法について概要を知る	1. 社会調査の目的、およびその方法の基本を理解できる	40	○		◎			
		2. 社会調査には量的調査と質的調査があり、どのような場合にそれを適用することができるかを理解できる	30	○		◎			
		3. 尺度、科学的方法、仮説といった社会調査のための基礎知識が理解できる	30	○		◎			
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	社会福祉士と精神福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲を包括的に理解する	1. 社会福祉士と精神福祉士の役割と意義について説明する	20		○	◎			
		2. 相談援助の概念と範囲について、国際定義やソーシャルワークの形成過程に基づき解説し、さらに相談援助の理念について検討する	40		○	◎			
		3. 人権尊重、社会正義、利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーションなどが包括的に学習する	40		○	◎			
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	社会福祉相談援助とは何かについて、その理念・倫理などの価値について学ぶ。自らのこれからの人生の経験や生活に結びつけ、また自らの価値観とも向き合いながら習得することを目指す	1. 社会福祉士、精神保健福祉士に求められる援助原則について考える	30		○	◎			
		2. 自己の価値観を見つめ、自己覚知する	30		○	◎			
		3. 自己の価値観を通じて、社会福祉相談援助の価値を習得する	40		○	◎			
相談援助の理論と方法Ⅰ	社会福祉相談援助に必要な価値・知識・技術に基づく理論と実践の基礎を理解する	1. 社会福祉相談援助に必要な基礎的理論を理解する	30		○	◎			
		2. 社会福祉相談援助に必要な基礎的実践を理解する	30		○	◎			
		3. 社会福祉相談援助の変遷と現状について理解する	40		○	◎			
相談援助の理論と方法Ⅱ	社会福祉相談援助の基本的な展開過程を理解する	1. 専門職に求められる課題発見力について理解する	40		○	◎			
		2. 専門職に求められる課題解決力について理解する	40		○	◎			
		3. 相談援助にもとめられる多職種との連携について理解する	20		○	◎			
相談援助の理論と方法Ⅲ	相談援助の理論について、より幅広い方法論を知識として理解することに加え、相談援助のプロセスを踏まえて、実践者に求められる知識とスキルの基礎を身につける。また、多様な領域、多様な専門職との協働のあり方も学ぶ	1. 相談援助の幅広い理論を理解する	30		○	◎			
		2. 相談援助の応用技法を理解し、説明できる	30		○	◎			
		3. 相談援助のさまざまな展開事例を知る	40		○	◎			

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 到達 目標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				①	②	③	④	⑤	⑥
相談援助の理論と方法Ⅳ	相談援助の理論について、より幅広い方法論を知識として理解することに加え、相談援助のプロセスを踏まえて、実践者に求められる知識とスキルの基礎を身につける。また、多様な領域、多様な専門職との協働のあり方も学ぶ	1. 相談援助の幅広い理論を理解する	30		○	◎			
		2. 相談援助の応用技法を理解し、説明できる	30		○	◎			
		3. 相談援助のさまざまな展開事例を知る	40		○	◎			
地域福祉Ⅰ	地域福祉の基本的枠組みと概要を理解する	1. 地域・コミュニティの特性とその意味を理解する	30	○		◎			
		2. 地域福祉の変遷と現状について理解する	30	○		◎			
		3. 地域福祉における相談援助の役割を理解する	40	○		◎			
地域福祉Ⅱ	地域福祉の課題と解決のための実践手法を理解する	1. 地域福祉活動の担い手について理解する	30	○		◎			
		2. 地域福祉活動に求められるネットワークについて理解する	30	○		◎			
		3. 地域福祉の課題に対する解決策に向けた知識と技術を理解する	40	○		◎			
社会福祉専門演習Ⅲ	基礎的な専門的学習及び見学やボランティア活動等で得た知識や見聞・体験あるいは社会福祉的感覚をベースに、10人程度のクラスで、自分の選んだ具体的な社会福祉課題について、総合的でダイナミックな理解を深めることや、それらに対する社会福祉的取り組みの基本的なあり方を学ぶ。そのために個人、或いはグループでのリサーチとプレゼンテーション、そしてクラス全体での積極的なディスカッションやディベートを展開する	1. 基礎的な社会福祉に関する理解踏まえて、より専門的に社会福祉前派について検証を行う	30		○				◎
		2. 自らの社会福祉分野の関心について、より深く学習を行う	30		○				◎
		3. 卒業論文のテーマとして関連する書籍、資料を検証する	40		○				◎
社会福祉専門演習Ⅳ	Ⅱに続き通年実習も経験して、自分の進路を考えた卒業研究に取組む最終学年での演習として、コミュニティ福祉と産業福祉という21世紀の社会福祉に相応しい課題の中から自分らしいテーマを選び、演習での活発な討論を重ねながら、自分らしい視点、方法、そして表現で研究を進めていくのがこの演習の課題である	1. 実習を通じて体験した事柄、社会福祉的視点からまとめる	30		○				◎
		2. 自らの社会福祉分野の関心について、より深く学習を行う	30		○				◎
		3. 卒業論文のテーマとして関連する書籍、資料を検証する	40		○				◎
卒業研究	専門演習Ⅱでの活発な討論を重ねながら、担当教員からの個別指導を受けて、論文という形式に設定されることなく、テーマに相応しい自由な表現形式を選択して、4年間の学習成果をまとめ上げる。社会へ飛び立つための自分の原点として、社会で取組む自分の課題と方法を明確にする	1. 関心のある社会的事象を社会福祉的視点から捉える	30				◎		
		2. 関連する文献や資料を収集し、まとめる	40				◎		
		3. 論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う	30				◎		
相談援助演習Ⅰ	相談援助の基本的な技術の習得を目指す	1. 自己理解に努める	30			○			◎
		2. 他者理解に努める	30			○			◎
		3. 基本的なコミュニケーションスキルの習得を目指す	40			○			◎
相談援助演習Ⅱ	相談援助の基本的な技術について理解する	1. 相談援助に必要な技術について理解する	30			○			◎
		2. 相談援助が必要となる場面について理解する	30			○			◎
		3. 相談援助を必要とする対象者について理解する	40			○			◎

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
①	②	③	④	⑤	⑥				
社会 保 障 I	日本の社会保障制度と年金保険・医療保険の概略を理解できる	1. 日本の社会保障制度の概略を理解できる	40	○		◎			
		2. 年金保険と医療保険の仕組みを説明できる	40	○		◎			
		3. 外国の制度と比較して、問題点を指摘できる	20	○		◎			
社会 保 障 II	日本の社会保障制度としての雇用保険・労災保険・介護保険を理解できる	1. 雇用保険・労災保険の制度を理解できる	40	○		◎			
		2. 介護保険と高齢者の生活を説明できる	40	○		◎			
		3. 外国の制度と比較して問題点を指摘できる	20	○		◎			
高 齢 者 福 祉	高齢期における心身の変化と高齢者を対象としたサービスの現状を理解する	1. 高齢期の心身の変化について基礎的な知識を身につける	30	○		◎			
		2. 高齢社会対策についての基礎知識を得る	30	○		◎			
		3. 支援を必要とする高齢者が活用できるサービスについて知る	40	○		◎			
介 護 福 祉	「人が人を介護する」をキーワードに、ヒューマンサービスとしての介護の基本や生活支援について理解する	1. ソーシャルワークと介護 介護福祉の概念と範囲を理解する	40	○		◎			
		2. 介護の理念と対象の理解	40	○	◎				
		3. 介護を必要とする人の生活支援の振り返り	20	○		◎			
児 童 ・ 家 庭 福 祉	現代社会の子どもの生活実態を、子どもと子どもを取り巻く環境の視点からとらえて把握する。また、そのなかで生じている社会問題や生活上の困難について、児童・家庭福祉領域においてどのような理念・考え方のもと、どのような支援がなされているのかについて学んでいく	1. 現代社会における子どもの生活実態を知り、その背景を多面的に理解する	30		○	◎			
		2. 子ども家庭福祉の基盤となる理念・価値を学ぶ	30		○	◎			
		3. 子ども家庭福祉における具体的な制度・サービスなどを知り、それらの活用と子どもや家庭への支援について検討する	40		○	◎			
生 活 保 護 制 度	公的扶助としての生活保護制度の仕組みと問題を理解できる	1. 日本の社会保障制度の中核としての生活保護制度の重要性を認識できる	40	○		◎			
		2. 生活保護制度の概要を説明できる	40	○		◎			
		3. 外国の制度と比較して問題点を指摘できる	20	○		◎			
就 労 支 援 サ ー ビ ス	障害者自立支援法の就労支援サービス等の就労支援制度の概要や就労支援に関する組織や関係機関との連携等に向けた取り組み、雇用者等への就労支援策についても学習する	1. 就労の意味とソーシャルワーカーの役割の理解	40	○		◎			
		2. 就労支援に関わる法律・制度の理解	40	○		◎			
		3. 障害者以外の社会福祉支援の必要な人たちの就労支援の現状理解	20	○		◎			
権 利 擁 護 と 成 年 後 見 制 度	相談援助実践における法との関わりを学び、成年後見制度と権利擁護活動の実態を理解する。相談援助実践における成年後見制度と法(憲法、民法、行政法)との関わりについて理解する。意志表出が困難な者に対する権利擁護活動の実態について理解を深める	1. 相談援助職として必要な成年後見制度、日常生活自立支援事業の知識を身につける	40	○		◎			
		2. 権利擁護活動の実態について理解する	40	○		◎			
		3. 憲法、民法、行政法といった社会福祉に関する法の理解を深める	20	○		◎			
司 法 福 祉	司法福祉領域における制度とこれら制度に係わる担い手・組織・団体等を解説し、相談支援に必要な知識や活動の実態を習得する	1. 社会福祉における法の意義について理解できる	20	○		◎			
		2. 障害者、高齢者、児童などの社会福祉の支援対象者に関わる法について理解できる	40	○		◎			
		3. 社会福祉支援の専門職として法の遵守について積極的に考えられる	40	○		◎			

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				①	②	③	④	⑤	⑥
福祉行政と福祉計画	福祉の行政について、福祉計画の意義や目的、方法、留意点について理解できる	1. 福祉行政の実施体制(組織及び団体の役割)を理解できる	40	○		◎			
		2. 福祉の財源について理解できる	30	○		◎			
		3. 福祉行政における専門職の役割について理解できる	30	○		◎			
社会福祉運営管理	組織的な福祉サービスの組織と経営に関わる基礎理論を理解したうえで、問題を分析し、目標体系を定め、事業を立案、選択、準備して実施し、事後評価の必要性、必要とされる技能や環境を構築し、福祉サービスの経営と管理運営の理解をする	1. 様々な社会・生活場面において、社会福祉との関係を理解できる	20	○		◎			
		2. 各社会福祉サービスの目的と、実際に利用する際の機関や手続き方法について理解できる	40	○		◎			
		3. 関心のある具体的事例について、社会福祉専門職として必要な知識と技術とは何かを理解できる	20	○		◎			
保育原理	保育所は保育に欠ける乳幼児を保育することを目的とする児童福祉施設であり、その主たる目的は、入所している子どもに対して最善の利益を考慮して保育を行うことである。本講義は、子どもの発達と理解と、保育所保育の本質を理解することを目的としている。	1. 保育の意義について理解する	40		◎		○		
		2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する	20		◎		○		
		3. 保育の内容と方法の基本について理解する	20		◎		○		
教育原理	教育という営みの本質と目的、並びに近代幼児教育思想の歴史を理解することは、現代の教育状況を考える際の基本的知識並びに教養として必要である。子どもに対する人びとのまなざしが変わっていったのが、また、その時代が求めた教育に対する考え方について、基本的事項を理解並びに習得して欲しい。	1. 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する	40		◎		○		
		2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する	30		◎		○		
		3. 教育の制度について理解する	30		◎		○		
社会的養護	児童福祉施設の体系や役割の理解や養護の実態を理解し、児童親や養護施設親を養うことをテーマとし、児童福祉施設(障害児施設も含む)のあり方、近接社会を含む家庭環境の新しい変化、それに伴い養護の基本的な部分を学び、課題等について理解する。	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ	40	○	◎				
		2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する	40	○	◎				
		3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する	20	○	◎				
保育者論	各保育施設の保育指針となっている「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」を手がかりとして、法制上求められている保育者の役割や責任ならびに保育施設の役割などを理解する。また、近代の保育の先達たちの幼児教育思想や実践などを通して自分の理想とする保育者像を描く。	1. 保育者の役割と倫理について理解する	30	○	◎				
		2. 保育士の制度的な位置づけを理解する	30	○	◎				
		3. 保育士の専門性について理解する	40	○	◎				
社会福祉学特講Ⅰ	個々の多様な生活場面において、社会福祉がどのような関わりをもつのかを具体的な事象を通じて理解できる	1. 様々な社会・生活場面において、社会福祉との関係を理解できる	30						◎
		2. 各社会福祉サービスの目的と、実際に利用する際の機関や手続き方法について理解できる	30						◎
		3. 関心のある具体的事例について、社会福祉専門職として必要な知識と技術とは何かを理解できる	40						◎
社会福祉学特講Ⅱ	個々の多様な生活場面において、社会福祉がどのような関わりをもつのかを具体的な事象を通じて理解できる	1. 身近な地域社会で起きている福祉的事象を俯瞰できる	30						◎
		2. ニーズ把握とアセスメントの力を養い、それぞれの支援について検討できる	30						◎
		3. 地域もふくめた総合的包括的支援のあり方を考察できる	40						◎
社会福祉学特講Ⅲ	個々の多様な生活場面において、社会福祉がどのような関わりをもつのかを具体的な事象を通じて理解できる	1. 他職種連携が求められる場面とはどのような場面なのか、他領域と社会福祉との関係を理解できる	30						◎
		2. 具体的な事例検討を通じて、福祉と多職種との連携協働を理解する	30						◎
		3. 他職種連携の具体的な事例を通して、社会福祉専門職として必要な知識と技術を深める	40						◎
社会福祉学特講Ⅳ	個々の多様な生活場面において、社会福祉がどのような関わりをもつのかを具体的な事象を通じて理解できる。また、国家試験合格への意欲を高める	1. 様々な社会・生活場面において、社会福祉との関係を理解できる	30						◎
		2. 各社会福祉サービスの目的と、実際に利用する際の機関や手続き方法について理解できる	30						◎
		3. 関心のある具体的事例について、社会福祉専門職として必要な知識と技術とは何かを理解できる	40						◎

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
①	②	③	④	⑤	⑥				
精神疾患とその治療 I	精神医学および精神医療の歴史を理解した上で、精神保健福祉士として必要な基礎的知識を学ぶ	1. 精神医学の歴史、社会的構造について理解する	30	○		◎			
		2. 精神医学と社会福祉援助の連携と実際について理解する	30	○		◎			
		3. 精神病院と精神保健福祉施設の関係について理解する	40	○		◎			
精神疾患とその治療 II	精神医学の概念、脳および神経の生理・解剖の基礎、心理検査や身体検査を含む診断方法、代表的な精神障害、身体的療法・薬物療法等の治療方法をまず理解させる。さらに現在の中心的存在である病院精神医療、精神科救急医療、さらにこれからの精神医療としての地域精神医療について学ぶ	1. 精神科治療の基礎的な理解をする	30	○		◎			
		2. 入院、通院、服薬の効果とその支援の在り方について理解する	30	○		◎			
		3. 精神科救急の現状について理解する	40	○		◎			
精神保健の課題と支援 I	学童期・思春期・青年期・成人期・老年期別のライフサイクルによる精神保健、精神障害者対策・老人性痴呆疾患対策・地域精神保健対策などの精神保健における個別課題としての精神障害者対策、家庭・学校・職場・地域における精神保健活動の実際、地域精神保健と地域保健等を学ぶ	1. ライフサイクルと精神保健の関係について理解する	30	○		◎			
		2. 地域における精神保健の専門機関について理解する	30	○		◎			
		3. 精神保健に関わる専門職の役割について理解する	40	○		◎			
精神保健の課題と支援 II	学童期・思春期・青年期・成人期・老年期のライフサイクルによる精神保健、精神障害者対策・老人性痴呆疾患対策・地域精神保健対策などの精神保健における個別課題としての精神障害者対策、家庭・学校・職場・地域における精神保健活動の実際、地域精神保健と地域保健等を学ぶ	1. 専門機関・専門職の連携について理解する	30	○		◎			
		2. 自ら地域の精神保健現状について調査し、その課題をまとめる	30	○		◎			
		3. 今後の精神保健の在り方について理解する	40	○		◎			
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	精神障害者がおかれてきた歴史的状况を踏まえ、精神保健福祉相談援助活動の意義、精神保健福祉士の価値や倫理、役割について理解を深める。また、社会福祉士と協働活動の意義、役割について理解を深める。精神保健福祉士の意義、精神保健福祉士の役割、相談援助の意義・目的、社会福祉士の役割等についても理解する	1. 精神保健福祉における相談援助の意義と効果を理解する	30	○		◎			
		2. 精神障害者の多様な生活様式に対する理解と支援のあり方を理解する	30	○		◎			
		3. 社会に存在する精神保健福祉援助に関わる機関・専門職を理解する	40	○		◎			



学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
				①	②	③	④	⑤	⑥
精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)	精神障害者の人権や働き方・地域生活を行うためのニーズを踏まえ、精神保健福祉相談援助活動における精神保健福祉士の価値や倫理、相談援助活動の内容及び展開過程、多職種連携の意義等についての理解を深める	1. 精神保健福祉における現状の課題とその解決のために必要な支援について理解する	30	○		◎			
		2. 精神保健福祉援助場面における支援における倫理について理解する	30	○		◎			
		3. 精神保健福祉援助場面における他職種連携について理解する	40	○		◎			
精神保健福祉の理 論と相談援助の展開 I	精神科リハビリテーションとは何か、その構成と精神保健福祉士の役割等について学ぶ	1. 精神科リハビリテーションの歴史、経緯について理解する	30	○		◎			
		2. 現状の精神科リハビリテーションについて理解する	30	○		◎			
		3. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割について理解する	40	○		◎			
精神保健福祉の理 論と相談援助の展開 II	社会復帰施設・精神保健福祉センターなどの精神科リハビリテーション施設、プロセスとしてのリハビリテーション計画やアプローチの方法、医療機関におけるリハビリテーション、精神保健福祉士が行うリハビリテーション、総合化に向けての地域リハビリテーションや職業リハビリテーションなどの現在の色々を取り組み、精神保健福祉施設等を学びそして精神科リハビリテーションの今後の方向性も考える	1. 精神保健福祉専門機関におけるリハビリテーションの意義について理解する	30	○		◎			
		2. 各専門施設でのリハビリテーションの実践について理解する	30	○		◎			
		3. 今後の精神科リハビリテーションの方向性について理解する	40	○		◎			
精神保健福祉の理 論と相談援助の展開 III	精神科医・福祉の場で精神障害者や家族、地域住民との関わりの中で、「利用者主体」社会生活自立支援を直接・間接援助技術の実践の中で実現する必要があることを知り、多様な生活をもつ当事者のニーズ・課題を尊重できる職業倫理を自覚させ、さらにチームアプローチや生活支援の視点から精神保健福祉士としての専門援助技術について理解する	1. 精神保健福祉における対人援助の必要性について理解する	30	○		◎			
		2. 個別援助、集団援助の法則と精神保健福祉援助における活用について理解する	30	○		◎			
		3. 対人援助場面における価値と倫理について理解する	40	○		◎			
精神保健福祉の理 論と相談援助の展開 IV	精神障害者に対する援助方法や実践の基本をまとめ、精神保健福祉士として理解すべき個別援助技術(ケースワーク)・集団援助技術(グループワーク)・地域援助技術(コミュニティワーク)の概念と基本的性格を習得し、具体的展開が行えるように具体的事例を通して理解する	1. 精神保健福祉援助における社会資源について理解する	30	○		◎			
		2. 精神保健福祉援助における専門職連携について理解する	30	○		◎			
		3. 精神保健福祉援助におけるケアマネジメントについて理解する	40	○		◎			
相談援助演習Ⅲ	相談援助の専門職に求められる技術について理解する	1. 相談援助の現場の課題を理解する	30		○	◎			
		2. 相談援助の専門職の役割と機能を理解する	30		○	◎			
		3. 相談援助における他職種との連携について理解する	40		○	◎			
相談援助演習Ⅳ	相談援助の現場に必要な実践力の習得を目指す	1. 事例検討会を通して個別支援を理解する	40		○	◎			
		2. 事例検討会を通して集団支援を理解する	30		○	◎			
		3. 事例検討会を通して地域支援を理解する	30		○	◎			
発達心理学	人は受胎から死に至るまでさまざまな変化し発達し続けるが、誕生から児童期にかけての発達の変化は大変に大きい。幼児教育の対象である子どもたちは大きな発達の変化の中におり、その変化をよく理解した上で保育しなくてはならない。人間の発達の共通性と特殊性について理解を深めることを目的とする。	1. 保育実践に関わる心理学の知識を習得する	30		◎		○		
		2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める	40		◎		○		
		3. 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する	30		◎		○		
教育心理学	教育における心理学的法則や事業を理解し、効果的な保育を展開するために必要な教育心理学の基本事項の知識を得ることを目的とする。学校は、現在も学び教えられる立場であるが、保育者となった時から子どもに教える事が始まる。子どもに対して、その子どもの発達に応じた教育的な対応のあり方考える。	1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める	40		◎		○		
		2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する	40		◎		○		
		3. 保育における発達援助について学ぶ	20		◎		○		

学科目	科目の主題	科目の到達目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体を100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
①	②	③	④	⑤	⑥				
保健医療保育概論Ⅰ	保健医療保育概論Ⅰ 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することを目的とする。子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解し、子どもの疾病と予防法および適切な対応について学ぶ。また、保育環境の整備や衛生管理・安全管理について考える。	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する	30	○			◎		
		2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する	30	○			◎		
		3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する	40	○			◎		
保健医療保育概論Ⅱ	保健医療保育概論Ⅱ 子どもの精神保健とその課題等について理解することを目的とする。子どもの生活環境と精神保健との関係や、子どもの心身の健康とその課題について理解する。施設等において子どもの心身の健康を促進するための実施体制について考える。なお、その際小児病棟・発達障がい児保育施設などについて体系的に学習し、その現状と問題点及び解決方法を社会福祉・心理・医療など多角的視点から考察する。	1. 子どもの精神保健とその課題等について理解する	30	○			◎		
		2. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する	30	○			◎		
		3. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する	40	○			◎		
保健医療保育演習	子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画及び評価について学ぶことを目的とする。子どもの健康や発達に望ましい保健活動と環境について考え、子どもの疾病と適切な対応や救急時の対応や事故防止・安全管理について具体的に学び、実践的技術を習得する。	1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ	30	○			◎		
		2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える	30	○			◎		
		3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する具体的に学ぶ	40	○			◎		
子どもの食と栄養	得るにわたって健全な生活を営むためには、小児期の食生活は、成長発育のみならず心の健康にも重要である。そのためには、小児の特性や子どもを取り巻く社会状況を理解し、人体・栄養・食品、食生活等の視点から、子どもの健康の維持・増進に貢献するための食事指導に必要な知識・技術を学ぶ。	1. 健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ	40	○			◎		
		2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める	40	○			◎		
		3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する	20	○			◎		
家庭支援論	今日、保育者と保護者、園と家庭との連携の必要性が高まってきており、「子育て支援」「家族援助」が保育の中心的課題となっている。日々の家庭場面における子どもへの関わりとともに、保育者として必要とされる家庭への援助にはどのようなことが求められるのか具体的な援助の方法や課題について考える。	1. 家庭の意義とその機能について理解する	40	○	◎				
		2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する	40	○	◎				
		3. 子育て家庭の支援体制について理解する	20	○	◎				
保育課程論	本科目は、保育における理論と実践をつなぐものであり、幼児教育における教育課程の意義と役割を明らかにするとともに、教育課程編成の留意事項などの理解をとおして、幼児の充実した園生活をつくり出すための教育課程のあり方について考察する。	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する	30	○	◎				
		2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する	30	○	◎				
		3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する	40	○	◎				

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 到達 目標	配分 学習量(授業内外の学修活動の総和)全体の100としたときの配分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				①	②	③	④	⑤	⑥
保育内容総論	保育内容の各領域を総合的に理解し、こどもの見かた、保育の方法について総合的に捉える視点を養うことを目的としている。具体的な内容は、保育の内容・方法、保育内容の歴史の変遷、こどもの発達と保育内容、子どもの活動と保育環境などである。	1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する	30	○	◎				
		2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する	30	○	◎				
		3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程をふまえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子どもの理解とのかかわりについて学ぶ	40	○	◎				
子どもと人間関係	子どもと人間関係 乳幼児期の子どもたちが「周りの人との関係を広げていく進歩から基本的な信頼感の確立、自我の形成、仲間との関係、社会とのつながり、遊びのこころの意味や役割等を学び、子どもに対する援助の方法や人間関係の理解をめざす。	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する	40	○	◎				
		2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ	40	○	◎				
		3. 子どもの発達を人間関係の観点から学ぶ	20	○	◎				
子どもと健康	子どもと健康 保育内容「健康」の領域の理解を深め、乳幼児期の健康・運動に関する知識を深めることを目的とし、乳幼児期の心身の発達、運動能力の発達、環境と子どもの健康との関連などについても理解し、保育や援助の仕方について考える。	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する	40	○	◎				
		2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ	40	○	◎				
		3. 子どもの発達を健康の観点から学ぶ	20	○	◎				
子どもとことば	子どもとことば 領域「言葉」について学ぶ。こどもが言葉を獲得し豊かな表現力を身につけていく過程を理解すること、絵本や音読、お話等のもつ文化的意義を認識しそれらをこどもたちに与える方法の習得をめざす。	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する	40	○	◎				
		2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ	40	○	◎				
		3. 子どもの発達を言葉の観点から学ぶ	20	○	◎				

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 到達 目標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号						
				凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
乳児保育演習		1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ	20		◎	○				
		2. 保育所、乳児院などにおける乳児保育の現状と課題について理解する	40		◎	○				
		3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健全な成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する	40		◎	○				
障がい児保育	障害を持つ子どもについて理解し、適切な配慮について学び、障害児保育を支える理念の紹介、障害の理解とその特徴、各障害に対する保育上の配慮、障害児保育の現状とその課題、障害児とその家族に対する支援などの内容を理解する。	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する	30		◎	○				
		2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ	30		◎	○				
		3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める	40		○	◎				
社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解する。施設養護及び他の社会的養護の実態について学び、個々の児童に応じた支援計画の作成や、日常生活の支援・治療的支援・自立支援等の内容について検討する。	1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士などの倫理について具体的に学ぶ	40		◎	○				
		2. 施設養護及び他の社会的養護の実態について学ぶ	40		◎	○				
		3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ	20		◎	○				
相談援助演習V	社会福祉士に必要な相談援助に係る価値、知識・技術を高める	1. 総合的かつ包括的な相談援助および具体的な問題解決の手法を体系的に理解する	30		○	◎				
		2. 社会資源の開発やネットワークの構築の手法を習得する	30		○	◎				
		3. 社会福祉士に必要な相談援助に関する能力を総合的に習得する	40		○	◎				
相談援助実習指導I	相談援助実習に向けて事前準備および配属調整を行い、万全の準備で実習に臨むことを目指す	1. 相談援助実習の意義・目的について理解する	40		○	◎				
		2. 教員・実習助手との面談をかきながら、学生に適正な実習先の配属調整を行う	20		○	◎				
		3. 各自の実習先について理解を深め、実習計画を立てる	40		○	◎				
相談援助実習指導II A	相談援助実習の基本的な理解を深める	1. 実習記録の作成について理解する	30		○	◎				
		2. 実習先の現状について理解する	30		○	◎				
		3. 実習先の社会福祉士の役割を理解する	40		○	◎				
相談援助実習指導II B	各自の相談援助実習の目的達成に向けて理解を深める	1. 実習先との良好な関係づくりに努める	30		○	◎				
		2. 相談援助実習の内容をまとめる	30		○	◎				
		3. 相談援助実習の内容を発表する	40		○	◎				
相談援助実習A	実習先を包括的に理解する	1. 実習先の利用者や職員との基本的な関係を築く	30		○	◎				
		2. 実習先の利用者の課題を理解する	30		○	◎				
		3. 実習先の社会福祉士の役割を理解する	40		○	◎				
相談援助実習B	実習計画に基づいた実習目的を達成する	1. 実習先の利用者に対して個別支援計画を策定する	30		○	◎				
		2. 実習先での他職種間との連携、地域との関係について理解する	30		○	◎				
		3. 実習計画書にあげた実習目的を達成する	40		○	◎				
精神保健福祉援助演習(基礎)	精神保健福祉士の専門的援助技術、リハビリテーション施設について学習する。精神病院等保健・医療施設および社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助を理解するとともに、精神障害者の社会復帰に向けた社会資源について理解する	1. 精神保健福祉援助における対人援助の意義と価値について理解する	30		○	◎				
		2. 医療施設における対人援助について理解する	30		○	◎				
		3. 社会福祉施設における対人援助について理解する	40		○	◎				

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号						
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
精神保健福祉援助 演習Ⅰ	精神障害者のおかれている現状を理解したうえで、精神保健福祉士の役割とその使命について学び、援助技術の習得を目的とする	1. 精神保健福祉場面における対人援助の理論について理解する	30		○	◎				
		2. 精神保健福祉援助場面における技術を習得する	30		○	◎				
		3. 精神保健福祉援助場面において適切な援助関係が構築できる	40		○	◎				
精神保健福祉援助 演習Ⅱ	精神障害者のおかれている現状を理解したうえで、精神保健福祉士の役割とその使命について学び、援助技術の習得を目的とする	1. Iで習得した知識・技術を活用して、具体的事例で対応する	30		○	◎				
		2. 臨床場面おいての援助事例を理解する	30		○	◎				
		3. 精神保健福祉士としての援助場面における価値・倫理をまとめる	40		○	◎				
精神保健福祉援助 実習指導Ⅰ	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な実践的に理解・学習する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実習での体験、援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てて考察していく能力を涵養する	1. 実習施設の機能と精神保健福祉援助における役割について理解する	30		○	◎				
		2. 対人援助場面における対応に必要な知識・技術の確認	30		○	◎				
		3. 実習施設について、具体的資料などから理解を深める	40		○	◎				
精神保健福祉援助 実習指導ⅠA	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な実践的に理解・学習する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実習での体験、援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てて考察していく能力を涵養する	1. 実習施設の機能と精神保健福祉援助における役割について理解する	30		○	◎				
		2. 対人援助場面における対応に必要な知識・技術の確認	30		○	◎				
		3. 実習施設について、具体的資料などから理解を深める	40		○	◎				
精神保健福祉援助 実習指導ⅠB	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な実践的に理解・学習する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。実習での体験、援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てて考察する能力を高める	1. 実習施設の機能と精神保健福祉援助における役割について理解する	30		○	◎				
		2. 対人援助場面における対応に必要な知識・技術の確認	30		○	◎				
		3. 実習施設について、具体的資料などから理解を深める	40		○	◎				
精神保健福祉援助 実習A	精神保健福祉士が知識と技術を生かして、専門職として役割を果たすには何が重要なかを現場から学び、さら現場精神保健福祉士として必要な知識および技術・関連知識を、現場体験を通して具体的に理解を深め習得することを目的とする	1. 実習先の利用者や職員との基本的な関係を築く	30		○	◎				
		2. 実習先の利用者の課題を理解する	30		○	◎				
		3. 実習先の社会福祉士の役割を理解する	40		○	◎				
精神保健福祉援助 実習B	精神保健福祉士が知識と技術を生かして、専門職として役割を果たすには何が重要なかを現場から学び、さら現場精神保健福祉士として必要な知識および技術・関連知識を、現場体験を通して具体的に理解を深め習得することを目的とする	1. 実習先の利用者に対して個別支援計画を策定する	30		○	◎				
		2. 実習先での他職種間との連携、地域との関係について理解する	30		○	◎				
		3. 実習計画書にあげた実習目的を達成する	40		○	◎				

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配分 学習量(授 業内外の 学修活動 の総和)全 体を100と したときの 配分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎:DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○:DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある 1つの達成目標に対して合わせて最大2個まで					
				①	②	③	④	⑤	⑥
子どもの体育	子どもの体育 幼児期から児童期の子どもにとって適切な運動を行うことは身体的発達のみならず、知的・情緒的・社会的発達を促すうえで必要不可欠なことである。この子どもの運動能力の発達に適切な運動課題を理解し、実践できる力を身に付ける。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する	30	◎	○				
		2. 身体表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する	30	◎	○				
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する	40	◎	○				
音楽療法	音楽療法 音楽表現に関する基本的な知識や技術について学ぶ。そのうえで、乳幼児期の子どもにとって音楽のもつ生理的・心理的効果を理解し、心身の健康の増進回復、運動の機転改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容などに向けて、意識的に音楽を活用する知識と技能を身に付ける。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する	30	◎	○				
		2. 音楽表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する	30	◎	○				
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する	40	◎	○				
図工	図工 造形表現に関する基本的な知識や技能を身に付け、それらに関するさまざまな活動を通して楽しむや遊びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得することを目指す。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する	30	◎	○				
		2. 造形表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する	30	◎	○				
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する	40	◎	○				
レクリエーション指導法	保育活動・教育活動の中で、各種行事の中での子供や年齢の子どもたちのレクリエーション活動は、人間関係を築く上で重要な活動である。レクリエーション活動の指導に関する理論と実践について、様々な場面の具体的な活動の実践とレクリエーション活動の意義・計画の立て方などについて講義する。	1. レクリエーション活動の意義と目的を理解する	30	◎	○				
		2. レクリエーション指導に関する理論と実践を学ぶ	40	◎	○				
		3. レクリエーション活動の具体的な計画策定について学ぶ	30		○	◎			
保育実習Ⅰ(保育所)	保育実習Ⅰ(保育所実習) 保育所での実習(2週間/80時間)を通して、保育所の役割、保育士の仕事を理解するとともに、子どもの発達にそった援助の方法を学ぶ。また、乳幼児と実際にかわかるとともに乳幼児の発達について理解するとともに、保育士の役割について具体的に学ぶ。	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する	30		○	◎			
		2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める	30		○	◎			
		3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ	40		○	◎			
保育実習Ⅰ(施設)	保育実習Ⅰ(施設実習) 障害児または障害者施設での実習(2週間/80時間)を通して、施設における保育士の仕事や利用者への援助の在り方について学び、障害児(者)への理解を深めるとともに、施設の種類と施設保育士の職務について理解する。	1. 児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する	30		○	◎			
		2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める	40		○	◎			
		3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ	30		○	◎			
保育実習指導Ⅰ	保育実習の意義と形態について理解を深め、保育実習Ⅰに臨むにあたっての各自の課題を明確にし、実習記録の書き方や指導計画の立て方を学び、実習に向けての準備を行う。さらに、保育実習の意義と形態、保育実習Ⅰの課題、実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解する	1. 保育実習の意義・目的を理解する	30		○	◎			
		2. 保育の内容を理解し、自らの課題を明確にする	40		○	◎			
		3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する	30		○	◎			
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱでの各自の課題を踏まえ、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。さらに、保育所・保育士の役割について理解を深め、保育実践のための必要な知識・技能を身に付け、さまざまな保育ニーズについての理解を深めることを目標とする。	1. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める	30		○	◎			
		2. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する	30		○	◎			
		3. 保育士としての自己の課題を明確化する	40		○	◎			
保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱに向けての事前指導及び事後指導を行う。保育実習Ⅱでの各自の課題を踏まえ、保育実習Ⅱの目標を明確にし、指導計画作成などの場での保育実践に必要な知識、技能を身に付ける。また、実習を振り返り、報告会や事後面談を通して保育実践のための自己の目標を明確にする。	1. 実習や既習の教科の内容やその関連性をふまえ、保育実践力を培う	30		○	◎			
		2. 保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ	30		○	◎			
		3. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする	40		○	◎			

学 科 目	科 目 の 主 題	科 目 の 測 定 目 標	配 分 学 習 量 (授 業 内 外 の 学 修 活 動 の 総 和) 全 体 を 100 と し た と き の 配 分	ディプロマポリシーの項目番号					
				凡例 ◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある ○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある					
				①	②	③	④	⑤	⑥
保育実習Ⅲ	児童福祉施設等での実習(2週間/80時間)を通して、障がい児(者)への理解を深めるとともに、施設の機能と施設保育士の職務について学ぶことを目的とする。実習施設の機能と利用者の生活の関わりを理解し、施設保育士の役割について学び、利用者のニーズをくみとり、適切な援助を行う。	1. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う	40		○	◎			
		2. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する	30		○	◎			
		3. 保育士としての自己の課題を明確化する	30		○	◎			
保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲに向けての事前指導及び事後指導を行う。保育実習Ⅰでの各自の課題を踏まえ、保育実習Ⅱの目標を明確にし、指導計画作成などの形態での保育実践に必要な知識、技能を身につける。また、実習を振り返り、報告会や事後面談を通して保育実践のための自己の目標を明確にする。	1. 実習や既習の教科の内容やその関連性をふまえ、保育実践力を培う	40		○	◎			
		2. 保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ	30		○	◎			
		3. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に関する課題や認識を明確にする	30		○	◎			